

奥会津だより

第44号
2007年初冬

今も暮らしに生きる道具をシリーズで紹介しします。-No.9 皮箕(カワミ)-

秋風がぼくの体をふきぬける

二瓶 孝章さん(三島小)

皮箕(カワミ)

サワグルミの樹皮一枚で作った皮箕は、角を折り曲げて根曲がり竹で縁をつけたもので、ソバ、大豆など雑穀類の選別をする道具。箕を上下させて息を吹きかけると、殻やゴミが吹き飛んで上質なものだけが残る。収穫して乾燥させた雑穀類は、こうして選別され、保存される。

皮箕は遠く東北アジアで作られている白樺樹皮の片口箕の作り方と同じだという。北に向かって分布する皮箕のふるさとをたどると、アジア大陸と直結する真っ直ぐな道が見える。

奥会津ってどこ？



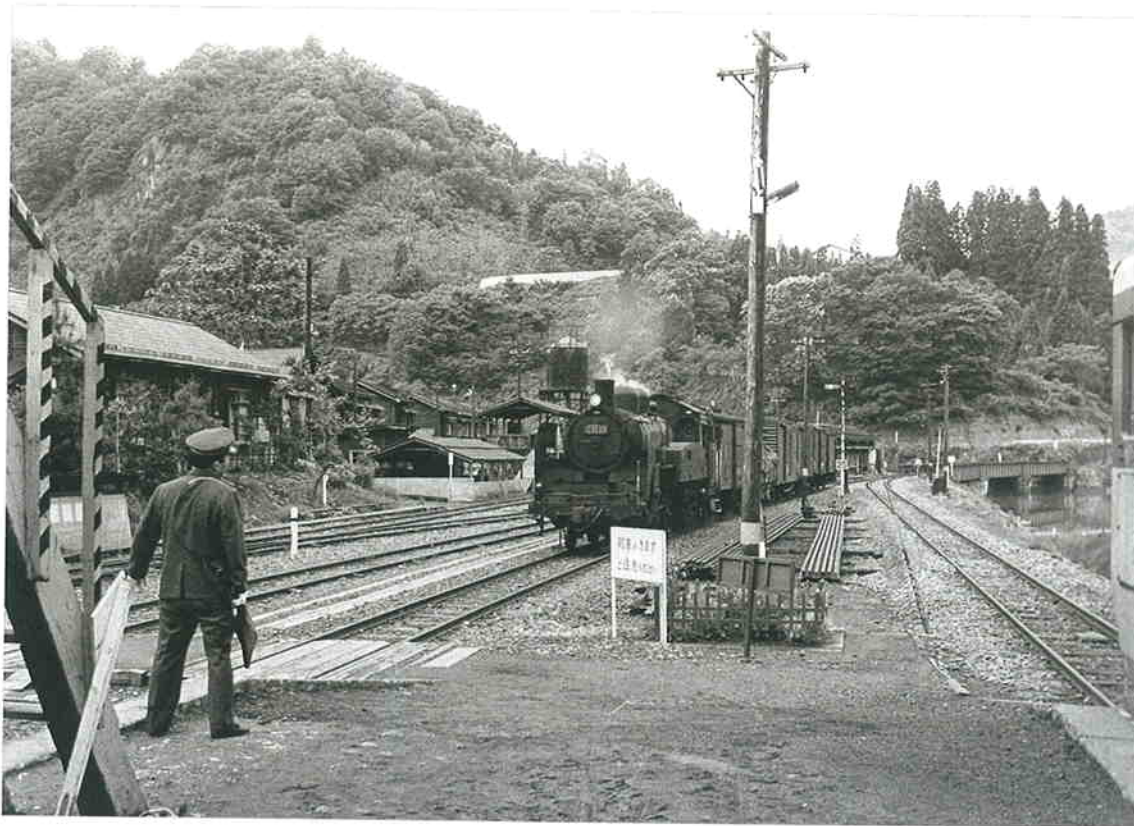
歳時記の郷 奥会津

なつかしい風景

◆今に続く暮らし

写真・説明 竹島善一

昭和40年代後半より現在まで、奥会津各地の暮らしを写真で記録している。(東京在住)



(金山町川口駅・昭和49年6月)
只見線を一往復走っていた急行「奥只見」号は、会津川口駅で上りの貨物列車と交換する。SLの旅客列車は、この年の秋で只見線から消えていった。単線での運行に欠かせないタブレットのやり取りは助役の仕事。腕木式の信号機も懐かしい。



(金山町玉梨・平成13年11月)
蒸気が吹き鳴らすSLの汽笛は遠くまで届いた。地形に加えて、その日の気象条件等にもよるらしいが、遙かな汽車の汽笛は山間の田に働く農民に時を知らせてもいた。それは、それぞれが定めに応じて仕事をこなしている連帯の思いにもなっていたであろう。

会津の鉄道は明治32年に岩越鉄道という私鉄として、郡山と若松間が開通したのが始まりである。その名のごとく岩代の国と越後を結ぶのが主眼であった。若松駅で列車が喜多方へ逆走するのは不自然で、坂下から野沢を経て新潟へ向かう予定だったと聞いた。坂下へ汽車が来たのは昭和元年である。同3年に柳津、16年に宮下まで開通する。川口へは31年、38年に只見までつながった。

只見線の伸延は只見川の電源開発と共にある。この路線はダムと発電所工事の専用線として敷設された後に国鉄に編入されてきた。坂下から柳津、宮下、川口といった町は、それぞれの時代、鉄道の終着駅として、物資の中継地として賑わった。馬車、自動車、人の背に担われて、物は集まり、散っていった。

私が会津へ通い始めた頃は、今の只見線も会津線と云われていた。昭和46年に大白川、只見間がむすばれて、小出若松間の路線を只見線と呼ぶようになった。

第11回歳時記の郷・奥会津フォトコンテスト作品募集

★奥会津地域内(柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町(旧南郷村)・旧伊南村・旧館岩村)・檜枝岐村)で撮影した作品

『自然風景・郷土文化』部門

四季折々の自然風景、伝統祭事や風物など奥会津を象徴する作品

※応募サイズ 4W(W4/インクジェット不可)

『奥会津思い出スナップ』部門

旅の思い出のスナップ写真を募集、奥会津を満喫した写真や記念写真等

※応募サイズ 2L×4切まで(インクジェットプリント可)

■応募期間 平成19年10月〜12月末日消印有効

■結果発表 平成20年1月下旬

※1週間以内に本人に直接通知

■審査 丹治敏明、福田健太郎、奥会津町長、他

■賞 各部門ともグランプリ、準グランプリ、奥会津町長賞、審査員特別賞&協賛メーカ

賞等

■応募上の注意 入賞・入選作品の使用権は主催者に帰属します。ポジ・ネガフィルムを提出頂きます。只見川電源流域振興協議会で、奥会津の振興のために無償で使用させていただきます。※原則として応募作品は返却いたしません。

■問合せ先 只見川電源流域振興協議会事務局

電話 024118252220

ファックス 02411822117

Eメール webmaster@okuznu.net

※詳細について応募要項をお送りいたしますので、お問合せ下さい。

第10回歳時記の郷・奥会津フォトコンテスト

自然風景・郷土文化部門 個人作品の部

準グランプリ『山上の楽園』

撮影者:須永純子

第10回歳時記の郷・奥会津フォトコンテスト

自然風景・郷土文化部門 個人作品の部

準グランプリ『山上の楽園』

撮影者:須永純子

第10回歳時記の郷・奥会津フォトコンテスト

自然風景・郷土文化部門 個人作品の部

準グランプリ『山上の楽園』

撮影者:須永純子

第10回歳時記の郷・奥会津フォトコンテスト

自然風景・郷土文化部門 個人作品の部

準グランプリ『山上の楽園』

撮影者:須永純子

第10回歳時記の郷・奥会津フォトコンテスト

自然風景・郷土文化部門 個人作品の部

準グランプリ『山上の楽園』

撮影者:須永純子

第10回歳時記の郷・奥会津フォトコンテスト

自然風景・郷土文化部門 個人作品の部

準グランプリ『山上の楽園』

撮影者:須永純子



志津倉岳（1234m）は三島町、昭和村、柳津町の境界に位置する奥深い山。「クラ」とは岸壁の意味で巨大なスラブの雨乞い岩、屏風岩、猫啼岩などいくつもの断崖絶壁を作っている。それらの岸壁には「カシヤ猫」「狗ひん様」「父の胎内、母の胎内」など多くの伝説がある神秘的な山であるが、稜線部は平坦なブナ林に覆われた台地になっている。



雨乞い岩とブナ林



様々な伝説といい、ブナ林の豊かさなど、最も奥会津らしい山といえよう。志津倉岳は金山ブナに覆われた山でブナ林の規模も大きい。人里から遠く、ブナ以外にはこれという特徴がないので訪れる人が少なく、奥会津に残されたブナ原生林では屈指のブナ林の一つといえる。登山道は大沢に沿った大沢コースとホソヒドコースがあるが、いずれ急傾斜の道だ。しかし志津倉岳の山頂からホソヒドコースにかけてのブナ林は圧巻だ。白っぽい色で、滑らかな樹肌をしたブナ美人達がスラリとした姿で林立している姿は、手招きして呼びかけているように思える。幹周りも2〜3m級の大木が次々と列をなして現れてくる。急斜面を下りきったところには2本の樹が合体した幹周り約5・6mのブナ巨木もある。

◆著者プロフィール
1942年生まれ。ブナをライフワークテーマとする。日本全国約500ヶ所のブナ林を訪ね歩いてきて、「ブナの山旅」（山と渓谷社）を出版。会社生活を卒業後は、ブナライフに徹するために生活拠点を会津若松市に移し、奥会津や東北各地のブナ林巡りを続けている。



手遊びの唄は、とりわけ女の子の子の中でていねいに伝承されてきた。手鞠やお手玉などの素朴な遊具は、いつも唄を纏っていた。

まりつきうた

いちばんはじめは うつのみや

には にっこりのとうじょうへう

さんは さくらのそうじょう

しは まさしげのすいこうじ

いつつ いずものおおやしろ

むつつ むらむら むらのうち

ななつ なりたのふどうせん

やつつ やまだのはちまんぐう

ごごのつ ごごのやのいっほ(う)さみ

とおにとうとうじゅうれんしゃ



伝承者・柳津町 石川ユキノ(89歳)

方言クイズ

クイズに答えて奥会津の
地場産品を買おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう？

「でえご」

ヒント：これから収穫の時期

正解者の中から抽選で1名様に、南会津町館岩の地場産品をプレゼントいたします。

●応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先：〒969-7511

福島県大沼郡三島町大字宮下中乙田979

奥会津書房 宛

●応募締切：2007年11月30日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。

※クイズの答えは次号45号で発表いたします。

◎43号「シイナ」の答え：未熟な実 たくさんのご応募ありがとうございました!

お祭り紹介

●トウミという物を初めて知りました。昔ながらの道具の素晴らしさに感動しました。
(福島県・吉田さん)

●郷土の伝統、文化等に誇りを持って現代を生き抜く皆さんに奥床しい潔さを感じ、とても羨ましく思いました。
(埼玉県・森さん)

●奥会津は森林セラピーの地として訪れます。ブナの葉の茂る夏期は心落ち着く地でゆっくりと散策するのが楽しみとなっています。
(千葉県・大津さん)

●奥会津ブナの旅を読み只見町から田子倉湖の美しい山々を思い出しました。紅葉の時にまた行ってみたいと思いました。
(栃木県・直井さん)

が公演しました。江戸時代には農民歌舞伎、明治40年までは習芝居、昭和30年頃までは買芝居がここで上演されていたようですが、その日それまで沈黙していた「古い建物」がこの公演によって「輝きをもった舞台」に変わったのです。

先日この地域の方から「昔はこの舞台に人が集まり踊ったり歌ったりといつもにぎやかだった」という話を聞きました。もしかしたら久しぶりにみんなから注目されて、舞台も少し緊張していたのかも知れません。

来年もまた大桃の舞台がたくさんの人でにぎわう舞台に人が集まり踊ったり歌ったりといつもにぎやかだった」という話を聞きました。もしかしたら久しぶりにみんなから注目されて、舞台も少し緊張していたのかも知れません。



次の出演を楽しみにじっと待つ舞台

地元記者の



夢舞台公演を終えて
大桃の舞台の輝き



奥会津だより地元記者
南会津町伊南地区
榎谷直輝

11月 12月 1月 奥会津イベント情報

三島町 おおたに新そばまつり

三島町の大谷地区で採れたそばを丁寧に石臼引きで粉にし、地元の名人が打ったそばが食べ放題。地元の素材を活かした一品料理付き。

- ◆日時 平成19年11月18日(日) 午前10時から午後2時30まで
- ◆場所 三島町大谷地区 大谷活性化センター
- ◆参加料 大人2,000円/小人1,000円 ◆定員 200名
- ◆問合せ 三島町産業建設課産業係 ☎0241(48)5533
- ◆メール mishima@town.mishima.fukushima.jp



金山町 第16回こぶし館のそばまつり

手打ちそば食べ放題(アザキ大根高遠そば他)、うす、きねつきもち食べ放題(納豆もち、きなこもち)他手作りコンニャク、そば団子汁など、沼沢湖のヒメマスの塩焼き(別料金)もお楽しみください。

- ◆日時 平成19年11月23日(金) 午前11時30分から
- ◆場所 こぶし館(金山町中川、会津中川駅近く)
- ◆参加料 大人(中学生以上)2,500円/小人1,800円(参加費は当日会場にて申し受けます)
- ◆定員 全席予約制
- ◆問合せ こぶし館 ☎0241(55)3334 FAX0241(55)3023

☆シーズン到来! スキー場オープン情報

南会津館岩 会津高原たかつえスキー場オープン

- ◆日時 平成19年12月15日(土) ◆場所 会津高原たかつえスキー場
- ◆駐車料金 無料 ◆リフト料金 1日券2,100円
- ◆問合せ 会津高原たかつえスキー場 ☎0241(78)2220
- ◆メール astraea@triton.ocn.ne.jp ◆URL http://www.takatsue.jp

只見町 只見スキー場OPEN

- ◆期間 平成19年12月21日(金)から平成20年3月31日(月)まで
- ◆場所 只見スキー場
- ◆問合せ 只見スキー場 ☎0241(82)2304

南会津南郷 会津高原南郷スキー場

レディースデー、メンズデー、誕生日プレゼント、スキースクール、イベント等(詳細については問合せ先まで)

- ◆日時 平成19年12月22日(土)オープン
- ◆場所 会津高原南郷スキー場
- ◆問合せ 会津高原南郷スキー場 ☎0241(73)2111



南会津伊南 会津高原高畑スキー場

- ◆日時 平成19年12月22日(土)オープン
- ◆場所 会津高原高畑スキー場
- ◆問合せ 会津高原高畑スキー場 ☎0241(76)2231
- ◆URL http://takahata.ski-area.co.jp

檜枝岐村 尾瀬檜枝岐温泉スキー場

- ◆日時 平成19年12月22日(土)オープン
- ◆場所 尾瀬檜枝岐温泉スキー場
- ◆問合せ 尾瀬檜枝岐温泉スキー場 ☎0241(75)2351

柳津町 柳津温泉スキー場

誰でも楽しめるファミリー向けのスキー場。ナイターも完備しています。スキーのあとは、柳津温泉でのんびり疲れを癒してください。

- ◆日時 平成19年12月23日(日) 午前10時から安全祈願祭
- ◆場所 柳津温泉スキー場
- ◆特典 オープン当日はリフト無料
- ◆営業時間 8:30~16:30 ナイター16:30~21:00 (※木・金・土曜日)
- ◆リフト料金* 1日券(大人2,600円、小人1,800円) * 11回券(大人1,500円、小人1,300円)
- ◆問合せ 柳津温泉スキー場 ☎0241(42)2245 (財)やないび振興公社 ☎0241(42)2302
- ◆メール info@akabeko.info (やないび振興公社)

金山町 フェアリーランドかねやまスキー場オープン

雄大な自然の中でゆったり、スノーボード(全面滑走可)の練習に最適なグレンデ、ファミリーで楽しめるソリ乗り、雪遊び場があります。

- ◆日時 平成19年12月23日(日) 午前8時30分~午後4時30分
- ◆場所 フェアリーランドかねやまスキー場
- ◆特典 レストハウスしらかば お食事半額 サービス リフト無料開放
- ◆リフト料金* 1日券(大人3,000円、小人・シニア2,000円) * 平日特典キャッシュバック1,000円(お帰りの際にリフト券と引き替え) * 家族券(5名まで/1日券)9,000円
- ◆問合せ フェアリーランドかねやまスキー場(または「こぶし館」) ☎0241(54)2022 (または☎0241(55)3334)
- ◆メール kanko@town.kaneyama.fukushima.jp



柳津町 七日常裸詣り

1200年の歴史を誇る名刹、福満虚空蔵尊圓蔵寺で行われる奇祭。下帯姿の男たちが雪と寒さの中、石段を駆け上がり、本堂内の天井に吊るされた大鯨口目指して一斉によじ上る。熱気溢れる勇壮なお祭りです。

- ◆日時 平成20年1月7日(月) 19時30分頃から21時30分頃まで
- ◆場所 福満虚空蔵尊圓蔵寺菊光堂
- ◆問合せ 柳津観光協会 ☎0241(42)2346
- ◆メール yanaizu@saturn.plala.or.jp



南会津町南郷 鶴巣早乙女踊り

- ◆日時 平成20年1月12日(土) 午後6時
- ◆場所 鶴巣集会所ほか
- ◆問合せ 鶴巣早乙女踊り保存会 ☎0241(72)2029

無料定期購読できます

ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。
問合せ先：只見川電源流域振興協議会事務局
電話：0241-82-5220 FAX：0241-82-2117
E-mail：webmaster@okuaizu.net



発行：只見川電源流域振興協議会(柳津町・三島町・金山町・昭和村・南会津町(南郷、伊南、館岩地域)・檜枝岐村・只見町) 発行日：11月10日発行(年5回発行)
事務局：〒968-0421 福島県南会津郡只見町役場 総務企画課企画班内 TEL.0241-82-5220 http://www.okuaizu.net webmaster@okuaizu.net
編集：奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580 ★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。

この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。